

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-80922
(P2001-80922A)

(43) 公開日 平成13年3月27日 (2001.3.27)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テームコード* (参考)

C 0 3 B 7/07
17/06

C 0 3 B 7/07
17/06

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-253952

(22) 出願日 平成11年9月8日 (1999.9.8)

(71) 出願人 000232243

日本電気硝子株式会社
滋賀県大津市晴嵐2丁目7番1号

(72) 発明者 西村 幸司

滋賀県大津市晴嵐2丁目7番1号 日本電
気硝子株式会社内

(72) 発明者 加埜 智典

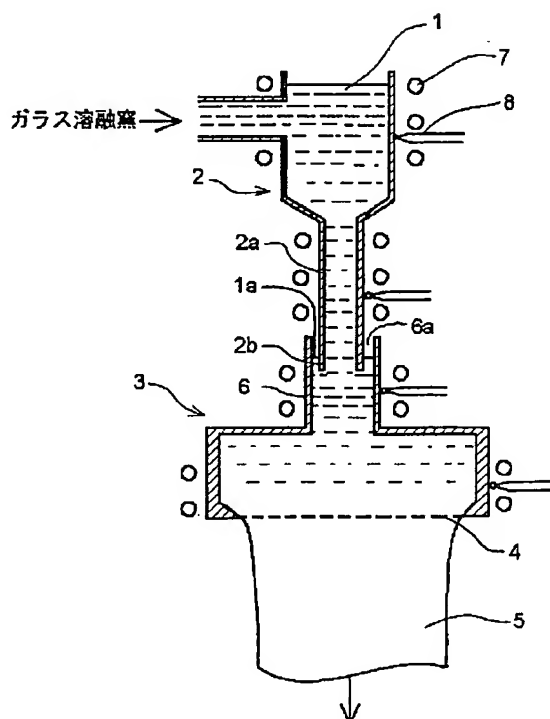
滋賀県大津市晴嵐2丁目7番1号 日本電
気硝子株式会社内

(54) 【発明の名称】 熔融ガラスの供給方法および供給装置

(57) 【要約】

【課題】 成形槽の温度を変化させた場合でも熔融ガラスの流量が変化せず、寸法が安定した状態で熔融ガラスを連続的に成形することができる供給方法および供給装置を提供する。

【解決手段】 本発明の装置は、底部に流出管2aを有して熔融ガラス1を所定温度に均熱化する第一槽2と、下方の成形槽3に連設する第二槽6とを有し、第一槽2の流出管2aの下端部2bを第二槽内6の熔融ガラス1の液面下1aに浸漬状態で配設してある。また、本発明の方法は、熔融ガラス1を第一槽2で所定温度に均熱化し、次いで熔融ガラス1を成形槽3に連設する第二槽6に供給する際、第一槽2の流出管2aの下端部2bを第二槽6内の熔融ガラス1の液面1a下に浸漬させた状態で連続的に熔融ガラス1を供給する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 溶融ガラスを底部に流出管を有する第一槽で所定温度に均熱化し、次いで前記第一槽の流出管より溶融ガラスを成形槽に連設する第二槽に供給する際、前記第一槽の流出管の下端部を前記第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬させた状態で連続的に溶融ガラスを供給することを特徴とする溶融ガラスの供給方法。

【請求項2】 底部に流出管を有して溶融ガラスを所定温度に均熱化する第一槽と、下方の成形槽に連設する第二槽とを有し、前記第一槽の流出管の下端部を前記第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬状態で配設してなることを特徴とする溶融ガラスの供給装置。

【請求項3】 第一槽、流出管、第二槽及び成形槽が、それぞれ独立した加熱手段及び温度センサを有し、各温度センサに接続され各加熱手段により内部の溶融ガラスの温度をそれぞれ独立して自動制御可能な温度調節器を備えたことを特徴とする請求項2に記載の溶融ガラスの供給装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は板ガラス等のガラス物品を溶融ガラスから連続的に成形する際の溶融ガラスの供給方法および供給装置に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、ガラス物品を連続的に成形する場合、例えば、薄い板ガラスを製造する際、ガラス溶融窯でガラス原料を加熱して溶融ガラスに溶解し、溶融ガラスを清澄し、十分に攪拌して成形に適した温度付近まで温度を低下させた後、図3に示すように、溶融ガラス1を、底部に流出管2aを備えた第一槽2内で成形に適した温度付近に均熱化した後、流出管2aを通じて成形槽3に供給する。成形槽3では、成形温度に調節された溶融ガラス1が略矩形状のガラス引出口4から引き出されて板ガラス5を連続的に成形している。

【0003】従来の溶融ガラスの供給装置では、第一槽2の溶融ガラス1は流出管2aで成形槽3に直接供給されるようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、板ガラス5の肉厚等の寸法を調整するために成形槽3の温度を上昇または下降させた場合、それに伴って流出管2aから供給される溶融ガラス1の温度も変化してガラス引出口4から引き出される溶融ガラス1の流量が変化するので、板ガラス5の断面寸法全体が変化して板ガラス5の寸法が良品の範囲から逸脱する。その流量変化を補正するために第一槽2あるいは流出管2a内の溶融ガラス1の設定温度を変更すると流量が定常状態になるまでのしばらくの間、良品の板ガラス5が得られないという問題点がある。

【0005】本発明の目的は、上記の問題点を解決した

溶融ガラスの供給方法および供給装置を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明に係る溶融ガラスの供給方法は、溶融ガラスを底部に流出管を有する第一槽で所定温度に均熱化し、次いで前記第一槽の流出管より溶融ガラスを成形槽に連設する第二槽に供給する際、前記第一槽の流出管の下端部を前記第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬させた状態で連続的に溶融ガラスを供給することを特徴とする。

【0007】また、本発明の溶融ガラスの供給装置は、底部に流出管を有して溶融ガラスを所定温度に均熱化する第一槽と、下方の成形槽に連設する第二槽とを有し、前記第一槽の流出管の下端部を前記第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬状態で配設してなることを特徴とする。

【0008】さらに、本発明の溶融ガラスの供給装置は、第一槽、流出管、第二槽及び成形槽が、それぞれ独立した加熱手段及び温度センサを有し、各温度センサに接続され各加熱手段により内部の溶融ガラスの温度をそれぞれ独立して自動制御可能な温度調節器を備えたことを特徴とする。

【0009】上記構成において、第一槽の底部の流出管中を流下する溶融ガラスの流量は、第一槽の溶融ガラスの液面から第二槽内の溶融ガラスの液面までの高さ、即ち、ヘッド高と、流出管中を流下する溶融ガラスの温度に連動する粘度によって決まる。本発明では、流出管中を流下する溶融ガラスの流量が一定になるように、流出管と成形槽とを切り離して溶融ガラスの液面が生じる第二槽を介在させることにより、成形槽の温度を変化させた場合でも流出管を流下する溶融ガラスの温度を一定に維持することが重要である。また、流出管内の溶融ガラスの温度を一定に維持する上で、流出管と第二槽との伝熱面積を小さくしておくことが好ましい。

【0010】

【作用】本発明によれば、溶融ガラスの供給装置が底部に流出管を有して溶融ガラスを所定温度に均熱化する第一槽と、下方の成形槽に連設する第二槽とを有し、第一槽の流出管の下端部を第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬状態で配設してあり、溶融ガラスを第一槽で所定温度に均熱化し、次いで第一槽の流出管より溶融ガラスを第二槽に供給する際、第一槽の流出管の下端部を第二槽内の溶融ガラスの液面下に浸漬させた状態で連続的に溶融ガラスを供給するので、成形槽の温度を上昇させた場合、成形される溶融ガラスの流量が一時的に増加して、第二槽内の溶融ガラスの液面が低くなり、それにより成形される溶融ガラスの流量が減少して流量の増加が相殺される。一方、成形槽の温度を降下させた場合、成形される溶融ガラスの流量が一時的に減少して、第二槽内の溶融ガラスの液面が高くなり、それにより成形される溶

融ガラスの流量が増加して流量の減少が相殺される。このように、成形槽の温度を変化させても、熔融ガラスの流量を一定に維持することができる。

【0011】また、本発明の熔融ガラスの供給装置は、第一槽、流出管、第二槽及び成形槽が、それぞれ独立した加熱手段及び温度センサを有し、各温度センサに接続され各加熱手段により内部の熔融ガラスの温度をそれぞれ独立して自動制御可能な温度調節器を備えているので、成形槽の温度を変化させた場合でも、第一槽、流出管、第二槽の温度を独立して自動制御して各槽内の熔融ガラスの温度、即ち粘度を一定に維持することにより、熔融ガラスの流量をさらに安定化させることができるようになる。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の実施例の説明図を図1に示す。図において1は熔融ガラスを、2は第一槽を、2aは第一槽2の底部に接続された流出管を、3は成形槽を、4は略矩形状のガラス引出口を、5は板ガラスを、6は第二槽を、7は加熱手段として発熱体を、8は温度センサとして熱電対を各々示しており、前出の図3と同一部分には同一符号を付してそれぞれ示している。

【0013】まず、本発明に係る熔融ガラスの供給装置の一例を説明する。

【0014】本発明の供給装置は、図1に示すように、底部に流出管2aを有し、熔融ガラス1の全体を成形温度よりも所定温度高い温度に均熱化する第一槽2と、成形槽3に連設して挿入口6aを有する第二槽6とが、流出管2aの下端部2bを第二槽6の挿入口6aに挿入させた配置となっており、供給装置の稼働時には第二槽6内の熔融ガラス1の液面1a下に流出管2aの下端部2bが浸漬した状態になる。第二槽6から成形槽3に供給されて成形温度に調整された熔融ガラス1は、略矩形状のガラス引出口4からローラー対（図示せず）により引き出され、所望の寸法形状の板ガラス5が連続的に成形されるようになっている。

【0015】また、第一槽2、流出管2a、第二槽6、成形槽3は、それぞれ独立した発熱体7及び熱電対8を有し、各熱電対8に接続され各発熱体7により内部の熔融ガラス1の温度をそれぞれ独立して自動制御可能な温度調節器（図示せず）を備えている。

【0016】次に、本発明に係る熔融ガラスの供給方法の一例を説明する。

【0017】本発明の供給方法では、まず、ガラス熔融窯（図示せず）によりガラス原料を約1600℃以上に加熱して熔融ガラスに溶解し、熔融ガラスを清澄して気泡や異物等を取り除き、熔融ガラスを十分に攪拌して脈理をなくし、熔融ガラスの粘度が10⁴～10⁵ポイズの範囲になる温度付近、例えば、1200℃付近まで温度を低下させる。所定の温度になった熔融ガラスを、図1に示すように、流出管2aを備えた第一槽2に供給して

熔融ガラス1全体を均熱化し、次いで流出管2aを通じて第二槽6に熔融ガラス1を供給する際、流出管2aの下端部2bを熔融ガラス1の液面1a下に浸漬させた状態で供給する。第二槽6から成形槽3内に供給された熔融ガラス1は、その粘度が成形に適した約10⁵ポイズになる成形温度、例えば、1150℃に調節され、成形温度になった熔融ガラス1を略矩形状のガラス引出口4からローラー対（図示せず）等の牽引手段により連続的に引き出して所望の寸法形状の板ガラス5に成形する。

【0018】上記の供給装置により板ガラス5を連続的に成形している時に、板ガラス5の断面形状、反り等を調整するために成形槽3の底部に開口している略矩形状のガラス引出口4の温度を、例えば、5℃変化させた場合、板ガラス5の断面積の変化は0.5%以内であり、板ガラス5が肉厚の良品規格を外れることはない。

【0019】これに対して従来の熔融ガラスの供給装置で成形槽3のガラス引出口4の温度を5℃変化させた場合、熔融ガラスの流量が変化し板ガラス5の断面積の変化は約3.5%に達し、板ガラス5は肉厚の良品規格を外れた。そこで、第一槽2及び流出管2a内の熔融ガラス1の設定温度を変更して流量変化を補正したが、流量が定常状態になるまでに約90分も要し、その間の板ガラス5は全てカレットになった。

【0020】また、本発明は、直接ガラス引出口4から熔融ガラス1を引き出す成形に限らず、図2に示すように、断面が略くさび形の成形体9の上部に形成されたオーバーフロー溝9aに熔融ガラス1を供給し、熔融ガラス1をオーバーフロー溝9aの両側から溢れさせて成形体9の両側の側壁面9bを流下させ成形温度まで冷却した後、各々の熔融ガラス1を成形体9の下頂部9cで融合させ1枚の板ガラス5を連続的に成形するオーバーフロー法にも適用可能である。この場合、熔融ガラス1を底部に流出管2aを有する第一槽2に供給して成形に適する温度付近に均熱化し、次いで下方の成形体9のオーバーフロー溝9aに連設する第二槽6に熔融ガラス1を供給する際、第一槽2の流出管2aの下端部2bを第二槽6内の熔融ガラス1の液面1a下に浸漬させた状態で連続的に熔融ガラス1を供給する。

【0021】なお、上記発明の実施の形態では、板ガラスの成形に関して例示したが、これに限らず、本発明は、管状体、棒状体等の成形にも適用可能である。

【0022】

【発明の効果】本発明は、上記のような構成により、成形槽の温度を変化させた場合でも熔融ガラスの流量が変化せず、寸法が安定した状態で熔融ガラスを連続的に成形することができる実用上優れた効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るの熔融ガラスの供給装置の説明図。

5

6

【図2】本発明に係る他の熔融ガラスの供給装置の説明図。

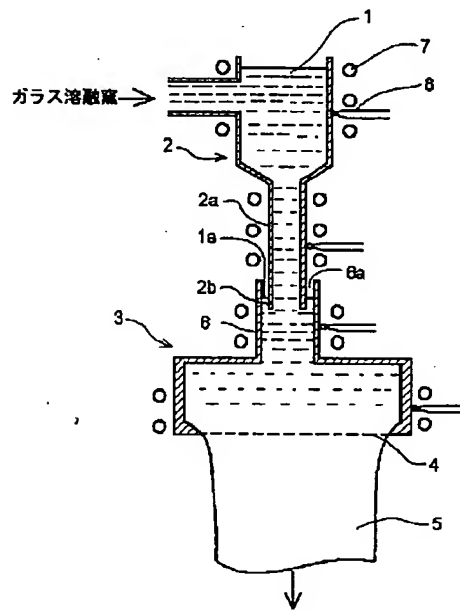
【図3】従来技術による熔融ガラスの供給装置の説明図。

【符号の説明】

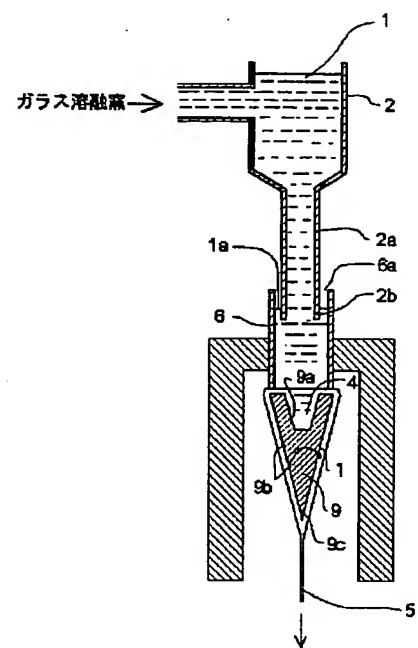
1 熔融ガラス
1a 液面
2 第一槽
2a 流出管

2b 下端部
3 成形槽
4 ガラス引出口
5 板ガラス
6 第二槽
6a 挿入口
7 発熱体
8 熱電対
9 成形体

【図1】



【図2】



【図3】

